



質問に答えて・・・ レファレンスコーナー



今回のレファレンスコーナーは、郷土を代表する詩人・童話作家である**宮沢賢治**の作品に関連したレファレンスを紹介します。

Q 宮沢賢治の童話「ポラーノの広場」に競馬場が登場するが、盛岡の競馬の歴史について教えてほしい。

栃木県に住んでいるという女性から、「盛岡市高松公園近くの盛岡競馬場跡地を訪れた際に、童話「ポラーノの広場」に登場する競馬場を感じたので、この付近について調べてみたい」というレファレンスが寄せられました。

賢治が盛岡に住んでいたのは盛岡中学校に入学した明治42年(1909年)から盛岡高等農林学校を卒業し、研究生をしていた大正7年(1918年)までの期間です。当時の岩手競馬の歴史について、当館所蔵資料『いわての競馬史』で調査を行いました。

<盛岡競馬開設経緯>

盛岡の競馬は、明治初期まで八幡宮境内の馬場で行われていた。明治4年に産馬会が菜園に競馬場を新設して競馬熱を盛り上げた。その後、明治36年に近代的な競馬場が完成し、記念競馬が盛大に開かれた。

<盛岡競馬場開設期間>

M 4	盛岡菜園馬場(走路、楕円形、約千メートル)が完成し、岩手県産馬会主催で洋式競馬がはじめて開催された。
M36	岩手郡米内村八幡森地内(現盛岡市高松2丁目)に新競馬場が完成。(走路、千メートル)当時の騎兵監・閑院宮載仁親王より「黄金競馬場」と命名された。
M45	走路を千六百メートルに拡張
S 8	耕地整理のため盛岡市上田毛無森(現盛岡市緑ヶ丘1丁目)に移転

依頼者に対して、調査結果を回答したところ、さらに次のようなレファレンスが寄せられました。

Q 童話「ポラーノの広場」には“モリーオ市では競馬場を植物園に拵え直す”となっている。昔の地図によると大正1年には菜園の競馬場跡地は“農学校”とあり、昭和14年には盛岡市高松2丁目の競馬場跡地の南側は“盛岡工高敷地”となっているが、これらの学校の正式名称、その後の沿革等を教えてほしい。

『日本図誌大系(1)北海道東北』により当時の地図を確認したうえで、教育史関係の資料により、“農学校”“盛岡工高”について調査を行いました。『岩手近代教育史』によると、農学校は正式名称「岩手県立農学校」(現在の「岩手県立盛岡農業高等学校」の前身)、盛岡工高は正式名称「盛岡高等工業学校」(現在の「岩手大学工学部」の前身)であることがわかりました。

それぞれの現在の校名が判明したので、さらに詳しい沿革について、「岩手県立盛岡農業高等学校」「岩手大学工学部」で発行している記念誌等により調査した結果次のとおりでした。

<農学校>

●沿革

M12	「獣医学舎」開設(藪川村外山牧場)
M13	「獣医学舎」移転(盛岡市内丸勸業場内)
M14	「獣医学舎」を産馬事務所に移管
M15	「私立岩手獣医学校」と改称
M17	「私立岩手獣医学校」を再び県立学校となし「県立獣医学校」となった。
M21	「岩手県農事講習所」開所(内丸勸業場内)
M28	「農事講習所」移転(大沢川原)
M31	「獣医学校」移転(菜園)
M32	「獣医学校」と「農事講習所」を合併し「岩手県農学校」開設
M33	新校舎完成(菜園)
M34	「岩手県立農学校」と改称
T12	「岩手県立盛岡農学校」と改称

S4	移転（川久保）（現在の岩手県立盛岡第四高等学校の場所）
S23	「岩手県立盛岡農業高等学校」と改称
S24	「岩手県立柏高等学校」と改称
S27	「岩手県立盛岡農業高等学校」と改称
S41	移転（滝沢村砂込）現在地

<盛岡工高>

●沿革

S14	「盛岡高等工業学校」設置（仮校舎 内丸：盛岡夜間中学）本校舎敷地を盛岡市上田に決定
S15	上田校舎での授業開始
S19	「盛岡工業専門学校」と改称
S20	連合軍進駐部隊盛岡宿営舎として接収される。元盛岡陸軍借行社及び通信部隊跡に移転（下厨川）
S22	上田校舎に再移転
S24	「盛岡農林専門学校」、「盛岡工業専門学校」、「岩手師範学校」、「岩手青年師範学校」が合併して「岩手大学」発足（農学部・工学部・学芸学部）
S26	「盛岡工業専門学校」廃止

依頼者に対して以上の事項を紹介して、今回のレファレンスについては終了としました。賢治の童話に登場する競馬場から発展したレファレンスでしたが、他にも賢治の作品には多くの実在する場所が登場します。以下に、賢治の童話に登場する場所（モデルとなった場所）、と作品名の一部を紹介します。

※ 作品名の表記は『新校本宮澤賢治全集』（筑摩書房出版）によりました。また、作品名の最後の○数字は上記全集の収録巻号です。

- ◆一本木野（滝沢村、岩手山の東側の裾野。現自衛隊演習場）
作品名「土神ときつね」⑨
- ◆狼森、笹森、盗森、黒坂森（小岩井農場の北にある小山）
作品名「狼森と笹森、盗森」⑫
- ◆台川、釜淵の滝（花巻市、北上川の一支流。台温泉が沿岸にある。台川にある滝）
作品名「台川」⑩
- ◆種山ヶ原（江刺市、遠野市、気仙郡の境界地域）
作品名「種山ヶ原」⑧
「風〔の〕又三郎」⑪
「さるのこしかけ」⑧
- ◆七つ森（盛岡市の西方、雫石町との境付近にある七

つ森の総称)

作品名「山男の四月」⑧

「紫紺染について」⑩

◆なめとこ山、大空滝（花巻市、豊沢川上流）

作品名「なめとこ山の熊」⑩

◆笛ふきの滝（早池峰山南面から発する岳川の上流にある笛貫の滝がモデルと思われる）

作品名「どんぐりと山猫」⑫

◆水沢緯度観測所（水沢市、現国立天文台水沢観測所）

作品名「土神ときつね」⑨

「風〔の〕又三郎」⑪

先のページでも紹介していますが、先日開催しました賢治資料展には多くの方々に来館いただきました。中には秋田県や福島県といった県外から来館された方もいらっしゃいましたし、今回のレファレンスも栃木県の方からのもので、改めて賢治に対する全国的な関心の高さを実感しました。当館では賢治文庫を設け、賢治に関する資料を多数所蔵しておりますので、ご利用をお待ちしております。

●参考文献（ ）内は当館請求記号

『いわての競馬史』

岩手県競馬組合 編（K788/イ1/1）

『もりおか物語(5) 上田かいわい』

盛岡の歴史を語る会 企画（K291.1/モ8/1-5）

『もりおか物語(9) 内丸・大通かいわい』

同上（K291.1/モ8/1-9）

『日本図誌大系(1) 北海道・東北Ⅱ』

朝倉書店 出版（K290.5/ヤ1/1）

『岩手近代教育史第1巻～第3巻』

岩手県教育委員会 編（K372/イ4/3-1~3-3）

『岩手県立盛岡農業高等学校110年誌』

岩手県立盛岡農業高等学校 編（K376.42/モ1/16）

『岩手大学五十年史』

岩手大学創立50周年記念誌編集委員会 編（K377.28/イワ）

『岩手大学工学部一祐会30年史』

30周年記念誌編集委員会 編（K377.1/イ1-3/1）

『新校本宮澤賢治全集』

筑摩書房 出版（ケン918.68/ミヤ）

『新宮澤賢治語彙事典』

原 子朗 著（ケン910.268/ハラ）

『宮澤賢治フィールドノート』

林 由紀夫 著（ケン//ハ27/1）

『宮沢賢治への旅 岩手県ポラン町字七つ森へ』

和順 高雄 文 中里 和人 写真（ケン//ワ17/1）